

情報公開文書

研究課題名	吸入薬の使用動向と吸入指導における薬剤師の介入について
研究体制	■長野赤十字病院が責任研究機関となる
研究責任者	責任研究機関 所属 <u>薬剤部</u> 氏名 <u>関口 美緒</u>
研究期間	(西暦) 承認日 ~ 2021年10月
研究の概要	<p>(研究の意義・目的)</p> <p>気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患（COPD）においては、吸入療法が治療の中心となっており、症状コントロールや予後改善には患者の理解度や吸入力に応じた適切なデバイスの選択が重要です。吸入薬としては吸入ステロイド薬（ICS）、長時間作用型β<sub>2</sub>刺激薬（LABA）、抗コリン薬（LAMA）に加え近年これらの合剤が登場し、多くのデバイスが上市されています。2019年にICS/LAMA/LABAの3成分合剤の吸入薬が登場し、現在ではテリルジー<sup>®</sup>、ビレーズトリ<sup>®</sup>、エナジア<sup>®</sup>が上市され、吸入薬選択の幅が広がっている。なお、当院では院内採用とされているのはテリルジー<sup>®</sup>のみです。吸入薬の効果を最大限に発揮するためには適切な薬剤選択と適正な使用が必要であり、吸入デバイスの使用に支障をきたす身体所見がないか確認し選択する必要があります。またテリルジー<sup>®</sup>が当院採用前と採用後で処方傾向を検討いたします。さらに過去1年間で吸入薬が導入された患者さんの中で、薬剤師が吸入薬のデバイス検討に関わった症例および吸入薬のデバイス変更に関与した症例と頻度について調査し、薬剤師が介入したことによる有用性を検証します。</p> <p>(研究方法)</p> <p>1.使用動向調査について 方法：電子カルテを用いてテリルジー<sup>®</sup>が当院採用となる前と採用後の処方の傾向を調査します。</p> <p>2.薬剤師が介入した症例について 方法：吸入薬が導入された患者の中で、薬剤師が吸入薬のデバイス検討に関わった症例または吸入薬のデバイス変更に関与した症例について電子カルテを用いて調査し薬剤師が介入したことによる有用性を検証します。</p>
試料・情報	(試料・情報の項目) カルテデータ
研究対象者	2017年4月～2021年3月の間にC5病棟に入院した気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患に対して吸入療法が用いられた患者さん。 ※当研究に自分の情報を使用してほしくない場合は下記のお問い合わせ先までお申し出ください。

個人情報の保護	収集したデータは、誰のデータか分からなくした（匿名化といいます）上で使用いたします。国が定めた倫理指針（「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」）に則って、個人情報を厳重に保護し、研究結果の発表に際しても、個人が特定できない形で行います。
お問い合わせ先	〒380-8582 長野県長野市若里五丁目22番1号 長野赤十字病院 所属 <u>薬剤部</u> 氏名 <u>関口 美緒</u>  TEL : 026-226-4131（代表） FAX : 026-228-8439